

既存情報を用いる研究についての情報公開

本学では、医学系研究に協力して下さる方々（以下研究対象者）の利益と安全を守り、安心して研究に参加していただくように心がけております。こちらに記載されている研究については、研究・診療等により収集・保存された既存試料・情報を用いる研究で、直接研究対象者からインフォームド・コンセントを取得することが困難であるため、情報公開をさせていただいております。

こちらの文書は研究対象者の皆様に、情報公開をするとともに、可能な限り研究参加を拒否または同意撤回の機会を保障する為のものになります。

なお、研究参加を拒否または同意撤回されても一切の不利益はないことを明記させていただきます。

| | |
|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------|
| 受付番号 | (倫理) 第 2950 号 |
| 研究課題 臨床倫理の教育効果の評価法と臨床倫理推論の能力評価尺度の開発：予備調査 | |
| 本研究の実施体制 担当者名と所属 門岡康弘 熊本大学大学院生命毛学研究部生命倫理学講座・教授 長尾式子 北里大学看護学部臨床看護領域・教授 田中るみ 同・助教 | |
| 研究における役割 門岡・長尾 立案、インタビュー、分析、考察、成果報告、匿名化された情報の保管 田中 個人情報管理（対象者の匿名化） | |
| 本研究の目的及び意義 我が国では臨床医療の現場で発生した倫理的問題への対応を支援する整備が急速に進んでいます。すでに多くの医療機関では病院・臨床倫理委員会（Hospital Ethics Committee、以下 HEC）が設置され、特に事例への助言を行う臨床倫理コンサルテーション（Clinical Ethics Consultation 以下、CEC）という支援活動も数多く報告されるようになりました。これに合わせて、医療職を対象とする臨床倫理教育プログラムや倫理問題も展開されています。一方で、そのような教育活動の効果を評価する方法については、我が国では関連する研究や議論はなく、確立しているとは言えません。具体的には、HEC や CEC の機能を評価する方法、担当する医療ケア専門職の倫理問題への対応能力、教育後の医療現場の変化などは不明のままです。臨床倫理支援のスキルや能力を適切に評価することは、臨床倫理教育の質の向上だけでなく、倫理的に良質な医療を提供するために重要です。 本研究は上述の背景から、臨床倫理教育を受けた方々のアンケート回答を分析し、下記の 2 点の解明を目的とする予備調査です。 1. 臨床倫理教育を受けた医療専門職は医療現場へどのような影響をもたらしたのか、 2. 実際に直面した臨床倫理問題をどのような分析・検討の過程を経て解決しているのか ご協力くださるようお願い申し上げます。 | |

研究の方法

門岡・長尾が開催に関与した臨床倫理教育において実施されたアンケートへのご回答を活用いたします。上述の2点をテーマとして、皆さまのご回答を質的内容分析という手法で分析します。(この分析の前に、田中が匿名化という、ご回答くださった方(研究対象者)が特定できないようにする処理を行います。これにより、門岡・長尾は、回答者が誰なのか特定することはできません。また、研究のデータが紛失や漏洩しても、研究対象者に社会的な不利益が生じることはありません)

分析結果は考察内容とともに医療倫理関連の学会や学術誌で発表します。その際も、研究対象者が特定される可能性は一切ありません。

研究期間

2024年03月21日～2026年3月末：情報(アンケート回答)の解析および考察、成果報告
2027年度末：最終の成果報告の予定

研究に利用する情報およびその取得期間

2014年4月以降に門岡・長尾が開催に関与した下記の臨床倫理教育において実施されたアンケートの回答で、両者が将来の教育活用のために保管しているものが分析対象になります。

上記の臨床倫理教育は、神奈川臨床倫理カンファレンス、東京都調布市の調布りんりんの会、NPO法人ヒューマン・ケア支援機構、熊本大学大学院生命科学研究部生命倫理学講座が開催に深く関与しているプログラムとなります。

個人情報の取扱い

上述のとおり、田中がアンケート回答用紙/画面から氏名・年齢・所属施設など、個人情報の種目を削除し、あわせて回答者(研究対象者)に研究用のID番号を付すことにより、回答者を特定できないようにします(匿名化)。また、研究用IDのリストは田中が所属施設の研究室にあるロッカーで保管します。これにより、門岡と長尾は対象者を特定することができません。そして、研究用の情報が紛失・盗難などの状況に陥っても、研究対象者が特定されることはありません。

研究成果に関する情報の開示・報告・閲覧の方法

研究成果は、医療倫理学関連の学会発表や論文報告で開示・報告いたします。これとは別に、研究内容に関するご質問やご要望などがある場合には、下記の問い合わせ先へお知らせください。研究内容の独自性や得られた知見の秘密利益などに応じて丁寧に説明いたします。

利益相反について

本研究は文部科学省科学研究費補助金基盤(C)「臨床倫理支援能力の枠組み構築と尺度開発」(研究代表者:長尾式子、研究分担者:門岡康弘)および生存科学研究所研究助成金(研究代表者:長尾式子)を用いて実施される。両出資者は非営利組織であることもふくめ、研究担当者に開示すべき利益相反状況はありません。研究担当者はいかなる個人的利益も優先せず、誠実かつ公正に本研究を遂行します。

本研究参加へのお断りの申し出について

アンケート回答の研究利用を拒否ないしは拒否される方は、ご遠慮なく、下記の問い合わせ先へお知らせください。ご協力・拒否は任意であり、拒否されても不利益は一切生じません。その場合はデータセットから削除して解析を進めますが、研究の進捗状況に応じて対応が困難なこともございます。また、本研究の利益については、成果報告が将来の臨床倫理視点の発展につながると考えられますが、ご協力くださる各対象者に対する直接的な利益はございません。

本研究に関する問い合わせ

門岡康弘（熊本大学大学院生命科学研究部生命倫理学講座）

熊本県熊本市中央区本荘 1-1-1 基礎医学研究棟 11 階 E メール：y-kad@kumamoto-u.ac.jp

長尾式子（北里大学看護学部臨床看護学領域）

神奈川県相模原市南区北里 2-1-1 E メール：n_nagao@nrs.kitasato-u.ac.jp